

平成30年度第8回まちづくり懇談会  
「船橋市国際交流協会」

1. 日 時：平成31年1月10日（木） 午後1時30分～午後2時30分
  2. 場 所：市役所9階 第2応接室
  3. 次 第
    - (1) 出席者自己紹介
    - (2) 市長挨拶
    - (3) 団体紹介
    - (4) 懇談
    - (5) 集合写真
  4. テーマ：これからの国際交流協会の進む道
- 【議題】
- ①青少年グループの創設について
  - ②日本語教室の改善策について
  - ③市民に対する外国語教室の開催について

---

●団体

今日はお忙しい中、このような場を設けてくださりましてありがとうございます。

○市長

いつも協会の皆様には日本語学習支援、外国人相談窓口、災害時の支援等、在住外国人のサポートをはじめ、高校生のヘイワード派遣など、次の時代を担う子供たちの育成にも熱心に取り組んでいただき、心から感謝申し上げます。

外国人の方は、労働者としてさらに増えていくと思いますし（※）新たに生まれたアパートなどで、ごみの捨て方ですとか、お互いの理解が十分でないこともあると聞いておりますので、災害の面も含めて、これからも協会のお力を

お借りしながら、さらにいい形で船橋市が国際都市として十分にやっていけるようなベースをつくっていきたいと思います。

(※) 外国人労働者の受け入れ拡大に向けた改正出入国管理・難民認定法（入管法）が平成31年4月施行予定。

## ●団体

今回のテーマを選んだ理由は、①外国人の大幅な増加が想定されること、②協会のボランティアの高齢化、③市民の皆様に向けて今までと違うことができないのか、という3点からでございます。

まず1つめの提案、青少年グループの創設についてです。

協会では平成30年度新規事業として、若い世代の会員を組織化する上で礎となる高校生を育成するため、ヘイワード市（姉妹都市）に派遣する「高校生海外派遣事業」を実施しました。募集人数10名のところ27名の応募があり、かなり手応えを感じました。参加者は約1週間ホームステイをしながら、カリフォルニア州立大学イーストベイ校の付属英語学校で学習し、実際に街で英語を使う体験をするなど異文化にふれることで、コミュニケーションや積極性の大切さなどを学びました。また、ヘイワード市の市民の方やバーバラ市長とも面談していただきまして非常に良い経験ができたと思います。

さらに彼らには平成30年10月に開催しました「インターナショナルフェスティバル」(※)で海外派遣の展示と綿あめの販売、ステージではインタビュー形式の発表をしてもらいました。こういったイベントを通して、市内の若い人たちに協力していただきながら、今後さらに年齢層の幅広い協会にしていきたいと思っております。

## (※) インターナショナルフェスティバル

市民に外国の人や文化と接してもらい、お互いに理解を深めるための事業。船橋アンデルセン公園で開催され、フリーマーケットや母国語教室を実施。また、母国の料理を振る舞った。

## ○市長

今回派遣した高校生たちがインターナショナルフェスティバルに参加して、楽しそうにみなさんと一緒に活動している姿を見まして、新たなスタートになったのではないかなと思いました。

また、派遣後に高校生が協会事業へ参画しやすくなるよう新たに学生会員枠もつくられたということで、これは今後の協会にとって一番大事なことだと思います。ただ、他の団体でも同じなのですが、役割が明確になっていないと入ってきてもなかなか続けるのが難しいのではないかと思いますので、彼等らしい活動ができるテーマをつくるとか、協会のアンバサダーとして指名するとか、またグループリーダーをつくって、そのリーダーにやってもらいたいことをお願いするとか、逆にやりたいことはないかまとめてもらったりするなど、自主的に活動できる場をつくってあげるといいと思います。

話は少し変わりますが、昨日、異業種の方たちをつなぐ経済ミーティング(※)を開催しました。1回あたり80人ぐらい集まります。農家の後継者や漁師、会社員や跡取りで商業をやっている方などがいます。他業種の方と知り合ってもらうためにずっと開催しており、かなり横のネットワークができました。ただ、自分たちの活動は互いに知っているけれど、福祉や国際交流については、どんなことをやっているか知らない人たちがいるので、協会の若い人たちにこういう集まりに参加してもらうのもいいなと思います。

### (※) ふなばし若手経済ミーティング

市内の若手事業者が農業・漁業・商業・工業の業種を超えて集まり、各々の強みを活かし、10年後・20年後を見据えて、船橋市を盛り上げていく活動を行っている。

## ●団体

今年度、夏休みの学生ボランティア体験会に国際交流協会として参加させていただきました。子供の日本語教室のお手伝いをしてください、ということで3名募集したところ、27人応募してくれて、高校生も5人参加してくれまし

たが、皆さんすごく関心が高かったので、このような場を通じて若い人たちの力をかりていくチャンスにしていきたいと思っています。

○市長

ボランティア体験が始まったのは、こども未来会議室という中学生たちが市長になったら何をしたいかというテーマで意見交換したときに、ボランティアをやりたいけれど、どこに行ったらいいからわからないという提案がありまして、そういった場所が欲しいというところから平成27年にスタートしました。ボランティアの受入れ団体と体験を希望する生徒・学生をつなぐ「マッチング会」には、1回目から200人ほど来て、すごいなと思いましたが、今年は300人以上集まりました。子どもたちはやる気があります。だから、チャンスはどうやってつくってあげるかだと思いますので、協会として完璧じゃなくてもいいからネットの翻訳を任せるとか、何かそういう日常的に関われる役割がつけれるといいかなという気がします。

●団体

交流も兼ねて、他団体の行事に飛び入り参加するのもいいかもしれませんね。

○市長

そうですね。例えば、日本語を使って日常会話を実践する場の「日本語ひろば」や、子ども日本語教室「地球っ子」に来て、ちょっと手伝ってもらうなど、とにかく何かネットワークを広げていく、そのチャンスをつくってあげたいと思います。

●団体

夏休み教室やイベントで活躍してくれていた関心のある大学生とも、その後連絡が途絶えてしまっていますので、ボランティアをしてもらう側も工夫しないといけないですね。

## ○市長

これは本当に何年か時間をかけてやっていただけると根付いていくと思います。また、その若手のグループのメンバーに、さっき言った経済ミーティングとか、ほかの音楽関係のイベントの実行委員会などに入ってもらって、何かそういったつながりができてくると市としても非常に心強いですね。

## ●団体

次に、外国人が急激に増えてくることを想定して、日本語教室のあり方を見直していかなければいけないと思っています。

1992年の開講時に、場所と時間帯を広めようということで、どの場所にもどんな時間帯にも通えることを目指して、市内全域7カ所で教室を展開しました。現在は8カ所で開催していますが、その進め方がかなり教室に委ねられていて、教室ごとでレベルが異なるということが起きており、これから日本語教室に通う外国人の数が増えてきた場合、やはりきちんとした教育システムの体制が必要であると思っています。

その他に10年前から市役所を会場として3カ月コースを年2回募集しています。それから今年度は、試行として1年コースを始めました。

また、日本語は困らない程度にできているけれど、日本の生活になじめない、もっと日本人と関わりたいという方たちが長年日本語教室に通っているので、そういった方々が自由に集まり、実際に日本語を使って日常会話を実践しながら日本人との接点ができるよう「日本語ひろば」を週2回やっています。

このような形で展開してきて、平成30年9月に新たに日本語教室を有料化しました。平成29年度の実績は、登録者数480名、出席者数250名でしたが、12月末の登録者数は220名になり、これを激減と見るか、習いたい方が来ていると見るかという判断は、ボランティアさん一人ひとりでも全く気持ちが変わりまして、今まで長いこと教えてきた方が来なくなったと寂しい思いをしているボランティアさんがいることも確かです。ただ、しっかり勉強しようとして残っている方もいますので、両者とも船橋に住んでいる外国人として、住民の仲間としてケアしていきたいと思っています。

次に子供の環境についてです。協会の事業のひとつとして、学校に日本語指導協力員を派遣しています。これは有償のボランティアですが30人ほどが登録していきまして、200人弱の帰国・外国人児童生徒のうち、約半分の子供たちを教えております。あとの半分は外国人の非常勤職員が対応しています。

課題としては、親の都合で来日しますので中学生も多いです。中学生で来日した子供の高校受験対策が今一番つらく、学校やボランティアの教室でやったぐらいではとても間に合わないという実態があります。

それともう一つは、不就学児童が把握できていないということです。つい最近ですが、毎日新聞のアンケートデータで、昨年度100市町村の児童生徒の実態調査をしていました。すると全国で6歳から14歳まで7万7,500人いる中で、公立の小中学校に通う児童生徒が5万7,013人います。多分それ以外に私立のインターナショナルスクール、フリースクールなどに通っていると思われる子供たちが3,977人、それ以外に確認できていない不就学とみなされる子供が全国で1万6,000人もいるのです。

土曜日に開催している子ども日本語教室「地球っ子」で学校にまだ行っていませんという保護者にどうして連れていかないのか聞くと、日本語がわからなくて怖いからとか、もうちょっとボランティアの教室でできるようになってから連れていこうと思っているというので、まずは学校に行かせてくれとお願いしています。そういうのが今の日本語教室を取り巻く実態です。

公的支援やボランティア支援だけでは足りない部分というのは、例えば、地域の中で災害があっても日本語を学んだからといって、とっさにその日本語が出るわけではないので、地域で近所の人が顔を知っている、名前を知っている、助け合えるという関係づくりをしていくことが大事だと思います。

#### ○市長

子供たちの環境については非常に大きな問題ですので、あらためて教育委員会と連携してやっていきます。

また、日本語教室は実際に現場に行っていないので詳しくはわかりませんが国際交流協会ですらこれだけいろいろなサポートをやっていただいているという

ことを知ってもらう必要がありますね。さきほどの若者たちのことも含めて、今年中に1回、市の広報で取り上げます。（※）

（※）「広報ふなばし」平成31年2月15日号の1面・2面で特集

#### ●団体

外国人が日本に住む方たちとうまく生活するためには、結局お互いの文化を知ることだと思うわけです。だから、ごみ出しの問題などもマナーがきちんとわかれば、それを守らない方はいないと思いますし、学校でも同じで、伝えたいことがわかってもらえればトラブルもなくなると思います。

#### ○市長

そうですね。やはり身近なところに解決しなくてはいけないことがたくさんあります。ゴミの出し方については多言語のパンフレットを作成していますし、学校では日本語がしゃべれないまま学校に来たときのサポートはしていますが、おっしゃるとおり親が子供の学校のことを知るのは手紙です。それが読めないとなると非常にハンデになってしまいますので、この辺はあらためて教育委員会と話をしてみます。

#### ●団体

では、提案項目の3つめですが、市民に対する外国語教室の開催についてです。在住する外国人の方が市民に対して外国語を教えたらどうかということですね。外国語を習うためには高額な月謝を支払う必要がありますが、リーズナブルな金額で外国人の方に授業をしていただき、また授業を通して外国人との交流も増やしていければと思います。

#### ○市長

いいですね。他市の協会は結構やっていると聞いています。カリキュラムの作り方や講師は、協会の方たちだけでできますか？

●団体

まだ計画段階で、一つ二つの言語から徐々にスタートしていこうと思っています。会員の外国人でも教師になれるレベルからスタートして、実績をつくってきちんとした事業に持っていくということが必要なのかなと考えています。

○市長

そうですね。これは是非やっていただきたいです。

外国語教室は収益にもつながると思いますが、収益事業と公益事業がある中で協会は公益のほとんどをなさっているわけですから、さらに発展させるためにも協会の法人化を意識しながらやっていくといいのではないかと思います。

●団体

そうですね。こういった収益事業活動も増やしていけば、法人化に向かっての素地ができていくのかなとは思っています。語学に関しては、指導方法を身につけないままやるというのがネックなので、協会らしさといえば、旅行のための会話や既にできる人たちが日ごろ使う場所がないから集まってきてブラッシュアップするといった場であれば、指導方法にこだわらず開催できると思います。

○市長

ぜひその中で、協会の活動をアピールしながらできれば、別の意味でも効果が出てくるような気がします。

今、ベトナムから来ている方が増えてきていますが、働きに来ている人たちから、実際に来てみてどう感じているかなどを聞くパネルディスカッションなどを企画するのもすごくいいと思います。

「ふなばし・あったカンパニー」という障害者雇用に積極的に取り組む事業所を認定し表彰する制度がありますが、その表彰式で社長さんたちと話をしたときに、一番大変だったことは一緒に働いている同僚が障害のある方にどこまで話をしているのかなど、接し方に迷ってしまうことだと言っていました。日頃、障害のある方と話をする機会というのは意外とないので、互いに話しあっ



てからはものすごく良くなったそうです。先ほどの文化の違いではありませんが、こちらが何でもないと思っていることが案外苦痛とを感じるケースがあるみたいなので、そういったことを聞ける企画もいいかなと思います。日本人として、これから外国人をどう支えていくべきかを協会としてやってもらえるとありがたいです。

●団体

帰国子女の子供たちが、市長さんとお話したいと言っていました。外国から帰ってきた子供たちはギャップを感じており、そういう話もすくい上げたらおもしろいと思います。彼らなりの悩みなんかがあると思いますので、何か役に立つようなことも飛び出すかもわからないと思っております。

教育委員会で年に1回出している「われら国際人」(※)という帰国子女の体験談を集めた冊子があります。スピーチや懇談会でも、外国から帰ってきた子供たちに全学校で作文を募集するといった方法でもいいかもしれません。

(※)市内の各学校、日本語指導員、日本語指導協力員等にのみ配布している。

○市長

面白そうですね。教育長に話をしてみますが、協会の事業でやってもらってもいいと思います。教育長も一緒に懇談するのもいいですね。

●団体

今日は短い時間でしたが、有意義なお話、ご意見をいろいろいただきましてありがとうございました。またこれを協会の基礎として進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○市長

ありがとうございました。また今年もいろいろとお世話になります。

よろしくお願いいたします。

— 了 —